

旧玉川線200形車両登場50周年を記念して、
世田谷線で懐かしの「玉電カラー」電車を運行

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄(本社:東京都渋谷区、社長:越村敏昭)では2005年11月8日(火)から、世田谷線(三軒茶屋～下高井戸間)の300系1編成を、グリーンとクリームのツートンカラーをあしらった「玉電カラー」電車として運行します。

「玉電カラー」電車は、1969年まで「玉電」の愛称で沿線のお客さまに親しまれた玉川線・砧線(渋谷～二子玉川園～砧本村間)で運行していた、200形車両の登場50周年を記念した電車で、当時の車両の塗色などをイメージしたものです。

200形車両は、1955年にそれまでの路面電車のイメージを覆すスタイルと機能で、鮮烈なデビューを果たした車両です。車輪を極力小さくして床を低くしたほか、ドアの開閉と連動する格納式ステップを設置するなど、現代の低床車両の先駆けと言われています。丸みを帯びた独特の車体デザインが人気を呼んでいましたが、1969年に新玉川線(現:田園都市線)建設工事に伴い玉川線・砧線が廃止された際に引退しました。

玉川線・砧線は、当社の前身の一つである玉川電気鉄道が運行していた路線で、現在の東急世田谷線は、玉川線の渋谷～二子玉川園間が廃止された際に三軒茶屋～下高井戸間が独立して残ったものです。

「玉電カラー」電車運行の概要は次の通りです。

「玉電カラー」電車の概要

運行期間	2005年11月8日(火)から
運転区間	世田谷線(三軒茶屋～下高井戸間)
使用車両	300系・1編成(車両番号301)
実施内容	車体を「玉電カラー」(グリーンとクリームのツートンカラー)にします。 車体側面に懐かしい「T.K.K.」(東京急行電鉄株式会社のローマ字表記の略称)マークを表示するほか、車両番号を200形と同様に車体側面に表示します。 車体前面下部に200形の排障器(線路上の障害物を取り除く機器)を模したステッカーを貼り付けます。

以上

(参考)「玉電カラー」電車のイメージ

